

平成24年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	特別支援教育	前田 博美	鹿児島市立山下小学校	<p>共に学び合う姿を目指した「交流及び共同学習」</p> <p>－子どもが分かる・できる喜びを味わうことができる教師の連携と指導の在り方－</p>	<p>本研究は、子どもの共に学び合う姿を目指し、交流及び共同学習において、子どもが分かる・できる喜びを味わうことができるようにするための、教師の連携と子どもへの指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、交流及び共同学習の指導に関係する教師の「連携の在り方」と「指導の在り方」について整理し、より効率的・効果的な教師の連携と子どもへの指導について、交流学級担任とのティーム・ティーチングによる授業を通して検証した。</p> <p>授業の様々な場面において、特別支援学級と交流学校の子どもの関わり合いながら学び合う場面を設定することができた。そのことを通して、特別支援学級の子どもの分かる・できる喜びを味わっている姿を見ることができた。</p>
2	算数	田原 英樹	南九州市立中福良小学校	<p>数量についての理解を深める算数科学習指導の在り方</p> <p>－低学年における自分の考えを表現し、説明する算数的活動を通して－</p>	<p>本研究は、数量についての理解を深めるために、自分の考えを表現し、説明する算数的活動を通して、低学年における算数科の学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、自分の考えを表現し、説明する算数的活動を「変換」「関連」「説明」という視点を基に捉え、算数的活動を充実させるための学習指導を7つの指導のポイントと12の手立てに整理し、授業で検証した。</p> <p>その結果、子どもが積極的に絵やブロックを操作したり、図や式に表現したりしながら、たし算やひき算などの意味や概念を理解する姿や数学的な表現を用いて、自分の考えを説明する姿が見られるようになった。</p>
3	理科	片平 嘉文	出水市立江内小学校	<p>子どもが明確な予想や仮説をもち、自ら考えを深める理科学習指導法の研究</p> <p>－既有知識の顕在化を重視した指導の工夫を通して－</p>	<p>本研究は、自ら考えを深める子どもの育成を目指し、既有知識の顕在化を重視した指導の工夫を通して、子どもが明確な予想や仮説をもつような理科学習指導法について研究したものである。</p> <p>具体的には、問題解決における予想や仮説の重要性について整理し、実態調査から検証単元に関する指導上の課題を明らかにした。また、既有知識を顕在化させる手立てとして、単元構成の工夫や教師の発問の工夫を行うことで、子どもが明確な予想や仮説をもち、自ら考えを深めるのではないかと考え、検証授業を行った。</p> <p>その結果、明確な予想や仮説をもたせることが、自ら考えを深める子どもの育成に有効だということが明らかになった。</p>
4	国語	福元 真太郎	さつま町立盈進小学校	<p>文学的文章を主体的に解釈できる子どもの育成</p> <p>－読解と表現を関連付けた「読むこと」の指導を通して－</p>	<p>本研究は、文学的文章を主体的に解釈できる子どもを育てるために、「主体性」「読解」「表現」「交流」の4項目を研究の柱とし、具現化を図る国語科学習の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、領域を関連付けた年間指導計画や主体的な解釈の育成を図る系統表を作成し、習得した知識・技能が生かされるとともに、学習につながりをもって指導ができるようにした。また、主体性をもたせるために課題設定の工夫や読解と表現を関連付けた読解の工夫、さらに解釈へと導くための交流活動を工夫し、検証授業を行った。</p> <p>その結果、子どもが主体的に学習に取り組むことができ、根拠に基づいて自分の考えを表現できるようになった。そして、最後には叙述を基に自らの力で解釈できる子どもの姿が多く見られるようになった。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
5	国語	田野辺 浩一	霧島市立日当山小学校	<p>子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成する国語科学習指導の在り方</p> <p>－説明的文章を教材として、単元を貫く言語活動を位置付けた指導法の改善－</p>	<p>本研究は、本校の国語の学習で課題とされている説明的文章の指導において、子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力の育成を図るための、国語科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、目的に応じて読む能力を単元ごとに設定し、その能力の育成に適した単元を貫く言語活動の種類や特徴などの明確化を図った。さらに、これらの能力の習得・活用を図る単元構成を工夫するため、単元を貫く言語活動を位置付けた指導過程等の工夫改善について、授業を通じた検証を行った。</p> <p>その結果、学んだことを日常生活や各教科等の学習にも進んで生かしていこうとする、子どもの主体性が高まり、単元でねらう能力の育成につながる事が明らかとなった。</p>
6	情報教育	江口 和洋	錦江町立大原小学校	<p>教科指導における情報活用能力育成の在り方</p> <p>－情報活用の実践力育成に重点を置いた小規模校での学習活動を通して－</p>	<p>本研究は、教科指導において、教科の目標達成と併せて、児童の情報活用能力育成を図る学習活動の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、教科指導において育成できる情報活用能力を明確にし、児童による ICT を活用した学習活動の工夫や、情報活用の実践力育成のための指導計画作成などを行い、それらを基に授業を構成し検証を行った。</p> <p>その結果、児童は複数の情報を比較しながら、必要な情報を判断、整理し、発表資料にまとめ、聞き手を意識した発表をすることができた。このことから、本研究の取組が、児童の情報活用能力育成に有効であることが明らかになった。</p>
7	数学	山端 真規子	鹿児島市立紫原中学校	<p>「数と式」「図形」の領域における、思考過程を整理し表現する生徒を育む指導の工夫</p> <p>－中学校第3学年の実践を通して－</p>	<p>本研究は、思考過程を整理し表現する生徒を育むために、問題解決の見通しをもたせることや筋道立てて説明させることについての指導の工夫に関する研究を行ったものである。</p> <p>具体的には、「数と式」「図形」の領域における学習内容の系統図を作成し、数学的活動の分類・整理を行った。また、問題解決の見通しをもたせるための「振り返りマップ」の活用、自分の考えを筋道立てて表現させるためのワークシートの活用、考えを伝え合わせるための「説明力アップシート」の活用による授業改善を図った。</p> <p>その結果、既習内容を分類・整理し、問題解決の見通しをもたせることや自分の考えの根拠をもち、筋道立てて表現させることにつながり、目指す生徒の姿に近付けることができた。</p>
8	国語	穂田 美奈子	出水市立出水中学校	<p>古典を主体的に読むための国語科学習指導の在り方</p> <p>－比べ読みの活動と伝え合う活動を通して－</p>	<p>本研究は、古典に親しむ態度を育てるために、伝統的な言語文化における身に付けさせたい力を整理して、古典を主体的に読むための国語科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、抵抗感を軽減させるように基礎的・基本的な定着を図るための手立てを毎時間取り入れ、比べ読みの活動のための教材選定やワークシート等の工夫と伝え合う活動のために発表の工夫を行い、それらを位置付けた授業を通して検証を行った。</p> <p>その結果、生徒は古人の姿と自分たちの姿を照らし合わせ、古人の考え方は現代にも通じていることを実感し、古典への関心を高めると同時に理解を深めることができた。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
9	社会	西元耕世	鹿屋市立鹿屋東中学校	<p>公民的分野における議論を通じた言語活動の充実に関する研究</p> <p>－思考力・判断力・表現力を育成する社会科学学習指導を目指して－</p>	<p>本研究は、議論を通じた言語活動の充実を図る学習指導を行い、中学校社会科（公民的分野）における思考力・判断力・表現力を育成する指導法を明らかにしようとするものである。</p> <p>具体的には、仮想のマンションの住民として議論させたり、実際の判例を基にした刑事裁判で仮想の裁判員として議論させたりするなど、言語活動を充実させる学習指導を工夫し、授業で検証した。</p> <p>その結果、自分の考えを文章にまとめることができるようになったと感じている生徒や、自分の考えを分かりやすく発表することができるようになったと感じている生徒が多く見られるようになった。</p>
10	数学	中島康二	県立穎娃高等学校	<p>「学び直し」に着目した指導の工夫</p> <p>－数学Ⅱ「高次方程式」「軌跡と領域」を通して－</p>	<p>本研究は、基礎・基本の確実な定着を図るために、算数・数学の学習におけるつまずきを分析し、「学び直し」に着目した指導の在り方を追究し、指導の手立てを工夫したものである。</p> <p>具体的には、小・中・高等学校における指導内容の系統性を整理し、レディネステストを行い、その結果を踏まえて学び直しシートを作成・活用した。また、誤答の提示等によるつまずきを生かした指導や既習内容を振り返らせる発問を行い、既習内容の定着を図ったり、新しい内容の問題解決の見通しをもたせたりした。</p> <p>その結果、数学Ⅱ「高次方程式」「軌跡と領域」の検証授業を通して、生徒がつまずきを把握・克服するために効果的であることが明らかになった。</p>
11	特別支援教育（数学）	吉田崇子	県立牧之原養護学校	<p>知的障害のある生徒の生活に生かす力を育む「数量の基礎」の指導の在り方</p> <p>－生活場面と関連付けた授業づくりを通して－</p>	<p>本研究は、知的障害特別支援学校中学部の数学科、「数量の基礎」に関する研究である。</p> <p>具体的には、「数量の基礎」の指導内容を系統的・段階的に配列した「指導計画」と、指導計画と関連付けた「生活場面での取組例」を作成した。また、P D C Aサイクルに基づいた生活場面と関連付けた授業づくりを通して、「数量の基礎」で学習する内容を生活に生かす力として育むための指導の在り方を明らかにし、このことを検証した。</p> <p>その結果、指導内容を系統的・段階的に設定し、課題提示や学習環境等の工夫をすることで、段階的に学習を積み重ねることができた。さらに、生活場面においても指導を行うことで、生徒の生活に生かす力を育むことができることが明らかになった。</p>